

製品一覧			
製品名		一般名称	色
キクスイSPパワーサーモF	上塗材	2液弱溶剤形屋根用ふっ素樹脂高日射反射率塗料（遮熱塗料）	3 2 色
キクスイSPパワーサーモS i	上塗材	2液弱溶剤形屋根用シリコン樹脂高日射反射率塗料（遮熱塗料）	3 2 色
キクスイSPパワーサーモシーラー	下塗材	2液屋根用エポキシ樹脂系浸透シーラー	白
キクスイSPサーモプライマー	下塗材	1液屋根用エポキシ樹脂系さび止め塗料	白

標準施工仕様書

■スレート屋根、波形スレート屋根、モニエル瓦の場合

工程	材料・調合	塗装器具	塗回数	間隔時間(h)	所要量
素地調整	スレート屋根、波形スレート屋根 苔、藻、こみ、塵埃、油脂などの付着物及び劣化塗膜は、高圧水洗淨（10MPa程度）で入念に除去し、水洗い後は翌日まで十分乾燥した清浄な面としてください。 モニエル瓦 苔、藻、こみ、塵埃、油脂などの付着物及び劣化塗膜、モニエル瓦の脆弱層は、高圧水洗淨（10MPa程度、トルネードノズル付）で入念に除去し、水洗い後は翌日まで十分乾燥した清浄な面としてください。				
下塗り	キクスイSPパワーサーモシーラー 主材：12.5kg 硬化剤：2.5kg 希希釈	はけ、ウルローラー エアレススプレー	1～2	3～168	スレート屋根、 波形スレート屋根 25～100 m ² /15kg [±] 約 0.15～0.60kg/ m ² モニエル瓦 45～75 m ² /15kg [±] 約 0.20～0.34kg/ m ²
上塗り	キクスイSPパワーサーモF 主材：13.5kg 硬化剤：1.5kg 塗料用シンナー A：0～1.5L	はけ、ウルローラー エアレススプレー	2	3～168	41～60 m ² /15kg [±] 約 0.25～0.36kg/ m ²
	キクスイSPパワーサーモS i 主材：13.5kg 硬化剤：1.5kg 塗料用シンナー A：0～1.5L	はけ、ウルローラー エアレススプレー	2	3～168	41～60 m ² /15kg [±] 約 0.25～0.36kg/ m ²

■金属屋根の場合

工程	材料・調合	塗装器具	塗回数	間隔時間 (h)	所要量
素地調整	旧塗膜に浮き、剥がれなど劣化部や脆弱部、さびや粉化物がある場合は、サンダーや皮スキなどで除去し乾燥した清浄な面としてください。				
下塗り	キクスイSPサーモプライマー	主材：16kg 塗料用シンナー A：0～1.6L	はけ、ウルローラー	1～2	4～168
	キクスイSPパワーサーモF	主材：13.5kg 硬化剤：1.5kg 塗料用シンナー A：0～1.5L	はけ、ウルローラー エアレススプレー	2	3～168
上塗り	キクスイSPパワーサーモS i	主材：13.5kg 硬化剤：1.5kg 塗料用シンナー A：0～1.5L	はけ、ウルローラー エアレススプレー	2	3～168
					107～123 m ² /16kg 0.13～0.15kg/m ²
					50～75 m ² /15kgセット 0.2～0.3kg/m ²
					50～75 m ² /15kgセット 0.2～0.3kg/m ²

※上記の数値値は、全て標準のものとする。施工方法・下地の形状によって異なります。
※塗料の施工値はAは、弊社推奨品とする。使用可否。その他のシナーを使用した場合は、 ちぢみや再溶解等の不具合が発生する恐れがあります。
※下塗材「キクスイSPパワーシーラー」の可成時間は、3時間（23℃）となります。 上塗材の可成時間は、6時間（23℃）となります。
※モニル瓦への塗装は、 光沢感がなくなるまで重ね塗りして下さい。

適応下地	荷姿
スレート屋根、波形スレート屋根、金属屋根、モニエル瓦 ※モニエル瓦の仕様は別途ご相談ください。	キクスイSPパワーサーモF 15kg セット(主材:13.5kg/ 缶、硬化剤:1.5kg/ 缶) 3kg セット(主材:2.7kg/ 缶、硬化剤:0.3kg/ 缶) キクスイSPパワーサーモSi 15kg セット(主材:13.5kg/ 缶、硬化剤:1.5kg/ 缶) 3kg セット(主材:2.7kg/ 缶、硬化剤:0.3kg/ 缶) キクスイSPパワーサーモシーラー 15kg セット(主材:12.5kg/ 缶、硬化剤:2.5kg/ 缶) キクスイSPサーモプライマー 16kg/ 缶、4kg/ 缶

注意事項（屋根用塗料）

【施工上の注意事項】

地下がスレート屋根、ゼムトウの場合は、下地の塗装を十分に行ない施工してください。

①旧塗膜の劣化が著しい場合や吸込みの多い場合は、劣化塗膜を除去した後、「イクスィSPペストシーラー」または「イクスィSPサーモシーラー」を光沢が出るまで塗り重ね、下地の強度を確保してください。下塗材乾燥後、再度「イクスィSPペストシーラー」を布で布下り、下地との付着性の確認を行ってください。下地が割れる場合は、再度下塗材を塗り付けて下さい。

②アスファルトフーリング、無機塗料、特殊下地の塗装及び特殊塗装の場合は、最寄りの弊社営業所に相談してください。また、日本には塗装はしていません。

③大きな動きが予想されるシーリング部分の部位への塗装は、塗膜ひび割れる可能性がありますので、なるべく施工を避けてください。

④下地調査や養生が不十分だと塗膜剥離の原因となります。また、光沢があるものの上がり不良になる場合があります。塗り替える場合は必ず高圧水洗がランジなどによる洗浄を行い、付着物や劣化塗膜を除去してください。

⑤高圧水洗は、基本的にハイドラースタイプのノズルを使用してください。ただし、下地を破損しないよう下地までの距離・水圧には注意し、基材の形状によりノズルタイプは選択してください。

⑥剥離・欠けが過半数の場合は、一旦上塗り乾燥させてください。

⑦雨・雪・霜が降りる場合は、一度乾燥させてください。また、カラーベスト、コロニアル表面が雨、霧などで湿潤状態の場合は、十分に乾燥させてください。

⑧鋼板下地、錆が発生している場合は、プライマー塗装などで完全に除去してください。

⑨塗膜の乾燥過程で水の影響を受け、場合（高温、結露、降雨）塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるとき、水分の影響を受ける可能性があります。施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が速いのでその施工を行わないでください。

⑩外部の塗装で降雨、降雪のおそれ、下地の塗装のおそれがある場合は施工を行わないでください。

⑪塗膜が露出が著しそうな部位、場所への塗装はしないでください。

⑫塗装面が高温（50℃以上）の場合は、仕上り物、物性上不良が発生することがありますので、施工を避けてください。

⑬直射日光下での施工は、適切な養生を行い、下地の急激な温度上昇を防止してください。

⑭雨天、翌日に降雨の可能性がある場合は、施工を避けてください。（塗装後3～5時間以内は、絶対に雨に合わないようしてください。）

⑮山間部や夜露が降りる地域では早く塗装を終えて、十分な乾燥時間を確保してください。

⑯施工時は換気を十分に行ってください。

⑰施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。

⑱施工とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工周辺に適切な養生を行ってください。

⑲乾燥途中・降雨等が予想される場合は、シート養生を行うとともに、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。

⑳塗料は、ミキサーに十分に混合させて使用してください。溶剤類の表面は防錆ミキサーを使用してください。

㉑開封後、一旦に使用しきれない場合は、密に密封してください。

㉒反応硬化剤の材料は、主材と硬化剤を指定の比率で混合し、防錆型ミキサーで混ぜ合わせて使用してください。特に十分に攪拌すること、計量器を用いた計量を行ってください。混ぜ合わせただけの材料は、可変時間内に使い切ってください。また、可変時間を超えても、希釈などによって変化する場合がありますので、注意してください。

㉓材料の希釈量は所定の量により、所定の所要量を守り事前の試験値などによって決定してください。希釈の過多、不足は下地と隣り合わない、不足がひび割れの原因となります。

㉔各種補修仕様に記載の所要量及び可変時間を守って施工し、適正な塗付量を確認してください。

㉕色、模様の変化に応じて事前に見本板を確認してください。

㉖被塗物の形状、厚膜、塗回数、希釈率などの違いにより実際のつやと異なる見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗量等箇所によって起こる場合があります。特に付帯設備品は、被塗物の形状、素地の状態、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

㉗使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

㉘他の材料と混合して使用しないでください。

㉙塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

㉚溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

①再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

②ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

③下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ塗り差しを行ってください。

④傷など・補修塗料が必要な場合がありますので、補修用を使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、塗色塗料は、被塗物の形状、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

⑤使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

⑥他の材料と混合して使用しないでください。

⑦塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

⑧溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

⑨再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

⑩ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

⑪下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ塗り差しを行ってください。

⑫傷など・補修塗料が必要な場合がありますので、補修用を使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、塗色塗料は、被塗物の形状、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

⑬使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

⑭他の材料と混合して使用しないでください。

⑮塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

⑯溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

⑰再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

⑱ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

⑲下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ塗り差しを行ってください。

⑳傷など・補修塗料が必要な場合がありますので、補修用を使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、塗色塗料は、被塗物の形状、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

㉑使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

㉒他の材料と混合して使用しないでください。

㉓塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

㉔溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

㉕再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

㉖ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

㉗下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ塗り差しを行ってください。

㉘傷など・補修塗料が必要な場合がありますので、補修用を使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、塗色塗料は、被塗物の形状、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

㉙使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

㉚他の材料と混合して使用しないでください。

㉛塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

㉜溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

㉝再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

㉞ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

㉟下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ塗り差しを行ってください。

㊱傷など・補修塗料が必要な場合がありますので、補修用を使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、塗色塗料は、被塗物の形状、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

㊲使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

㊳他の材料と混合して使用しないでください。

㊴塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

㊵溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

㊶再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

㊷ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

㊸下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ塗り差しを行ってください。

㊹傷など・補修塗料が必要な場合がありますので、補修用を使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、塗色塗料は、被塗物の形状、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

㊺使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

㊻他の材料と混合して使用しないでください。

㊼塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

㊽溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

㊾再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

㊿ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

①再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

②ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

③下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ塗り差しを行ってください。

④傷など・補修塗料が必要な場合がありますので、補修用を使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、塗色塗料は、被塗物の形状、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

⑤使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

⑥他の材料と混合して使用しないでください。

⑦塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

⑧溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

⑨再塗装・剥離箇所の場合は、ローラー塗装仕様及びケレン仕上げを行ってください。

⑩ローラー塗りの場合は、ローラー目地に掛かるように塗ってください。ローラー目により、色相や仕上がり感異なります。なるべく均一に塗るよう心がけください。

⑪下地が波形鋼板の場合、山の部分や、鋼板の継ぎ目、折り曲げ部分は、膜が薄くなりがちです。あらかじめ塗り差しを行ってください。

⑫傷など・補修塗料が必要な場合がありますので、補修用を使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、塗色塗料は、被塗物の形状、厚膜、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干異なる場合がありますので、試し塗りを必ず行ってください。

⑬使用材料は必ず施工後、密に密封して保管してください。

⑭他の材料と混合して使用しないでください。

⑮塗装後、水切部でカラーベスト、コロニアルの重なり部分に塗料がつまり漏水の原因になります。塗料がつまりやすい箇所は、皮すき、ケレン、刷、カッターなどを用いた塗料を除去し歯ブラシで磨き切ってください。

⑯溶剤類の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください



菊水化学工業株式会社

本社／名古屋市中区錦2丁目19番25号 日本生命広小路ビル
☎052-300-2222(代)

ホームページ <http://www.kikusui-chem.co.jp/>



仙 台 支 店 ☎ 022-706-5710

東京支店 ☎ 03-3981-2500

名古屋支店 ☎ 0568-69-5200

関西支店 ☎ 06-7668-5320

福岡支店 ☎ 092-935-4610



2 液弱溶剤形屋根用高日射反射率塗料（遮熱塗料）

kikusui

ワンランク違う熱線反射！！

特殊無機顔料による遮熱パワー

キクスイSPパワーサーモF

キクスイSPパワーサーモSi

遮熱塗料

遮熱効果



日射侵入比(1に対して)	0.8~0.6	0.6~0.4	0.4>
--------------	---------	---------	------

一般社団法人 日本塗料工業会

一般社団法人 日本塗料工業会

日本生計工業

これから遮熱で健康&省エネ！

夏の冷房効果が気になる…

屋根の熱が室内の温度に影響している気がする…

そんな時に遮熱塗料を使うと…

屋根が熱くなりにくいため、室内への熱移動の影響が少なくなり、冷房効果が高まります。

※遮熱塗料の効果は、色調や場所、建物の構造・断熱材の有無等により差がです。日射の影響が大きい屋根や、金属屋根で断熱材が無い場合は大きな効果が期待できます。

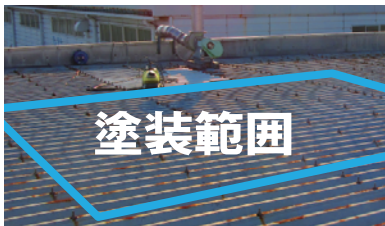
熱中症対策

屋内でも熱中症になるケースは多くあります。熱中症にならないためには室内の温度が高ならないように気をつけることに加え、湿度が高いと汗をかきづらくなってしまうので、換気や除湿にも気を付けましょう。また、水分補給も大切です。

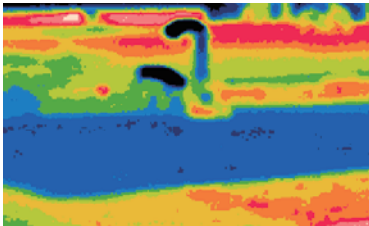
省エネ効果

太陽の熱の影響を直接受けやすい屋根に遮熱塗料を塗装することで室内の急激な温度上昇を防ぎ、冷房の設定温度をあまり下げなくても快適に過ごすことができます。また、蓄熱や、エアコン使用によるCO₂発生を軽減できるので温暖化対策にも貢献できます。

施工温度比較（サーモグラフィーによる温度差確認）



塗装箇所



サーモグラフィー画像

キクスイSPパワーサーモSiを塗装した面と塗装していない面では約7度の温度低減を確認できた。（塗装面：33.3℃、無塗装面：40.4℃）（キクスイSPパワーサーモFも同等の性能です）

※サーモグラフィーの画像は、赤>オレンジ>黄>緑>青の順で温度が高いことを示しています。※温度の数値は実績値です。保証値ではございません。

キクスイの遮熱塗料はなんでおすすめの？①

●特殊な黒

濃色が多い屋根に欠かせないのが黒色顔料。熱を吸収しやすい黒色を、変色が起こりやすいと3色の顔料混合で作らず、特殊なチタン系黒色遮熱顔料を使用することで、黒さと優れた遮熱性能を兼ね備えています。

有機顔料3原色の混合で黒色を作る



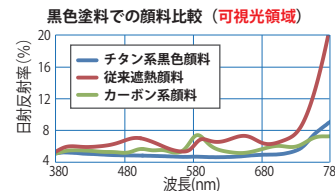
変色リスクあり

チタン系黒色遮熱顔料（無機顔料）

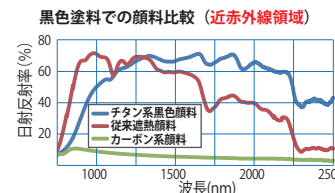


変色リスク大幅低減

●チタン系黒色顔料と一般顔料との比較



可視光領域（380～780nm）の光は、反射率が低い方が黒味のある塗料となります。チタン系黒色顔料を使用した塗料の方が高い漆黒性を発揮します。



近赤外線領域（780～2500nm）の光は、反射率が高い方が遮熱性能が高くなります。チタン系黒色顔料を使用した塗料の方が遮熱性能が高くなります。

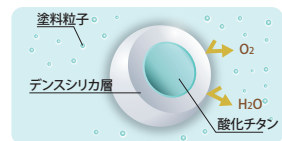
キクスイの遮熱塗料はなんでおすすめの？②

●優れた耐候性 トリプルブロック

「デンスシリカ処理技術」「ラジカルトラップ技術」「紫外線吸収技術」を組み合わせたトリプルブロックシステムにより、紫外線による塗膜の劣化を抑制します。高い光沢を保持し、美しい屋根を維持することができます。

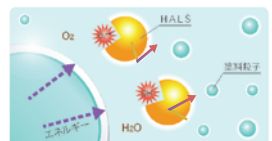
1 ラジカルを抑制するデンスシリカ処理技術

従来とは異なる独自の酸化チタン表面処理技術によりラジカルの発生を抑え耐候性を向上させます。



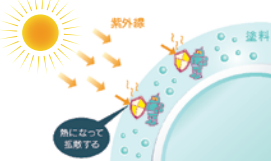
2 発生したラジカルを食べて無害化するラジカルトラップ技術

発生したラジカルを食べてしまうラジカルトラップ剤（HALS）により劣化を大幅に抑えます。



3 塗膜に照射された紫外線を熱に変換する紫外線吸収技術

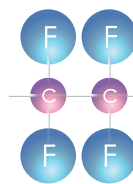
紫外線が当たるとそのエネルギーを吸収し熱に変換します。



●優れた耐候性

4フッ化フッ素樹脂

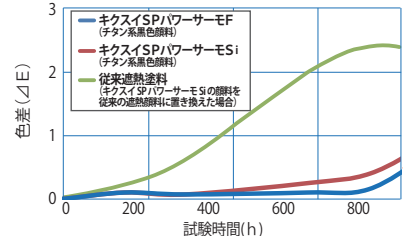
（キクスイSPパワーサーモFのみ）



従来のふっ素樹脂よりも紫外線劣化に強い4フッ化フッ素樹脂を使用しているため非常に優れた耐候性を実現します。

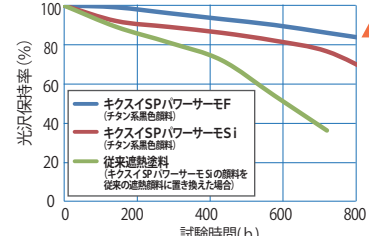
●耐候性試験

スーパーUVによる促進耐候性試験



色差は数値が小さいほど色の変化が少ない（耐候性が良い）ことを示します。チタン系黒色顔料を使用した塗料は、従来遮熱顔料を使用した塗料に比べて耐候性が良いと言えます。

スーパーUVによる促進耐候性試験



光沢保持率は数値が100%から下がるほど艶が落ちない（耐候性が良い）ことを示します。チタン系黒色顔料を使用した塗料は、従来遮熱顔料を使用した塗料に比べて耐候性が良いと言えます。

色別反射率

遮熱性能は塗料の色調によっても効果に差があります。

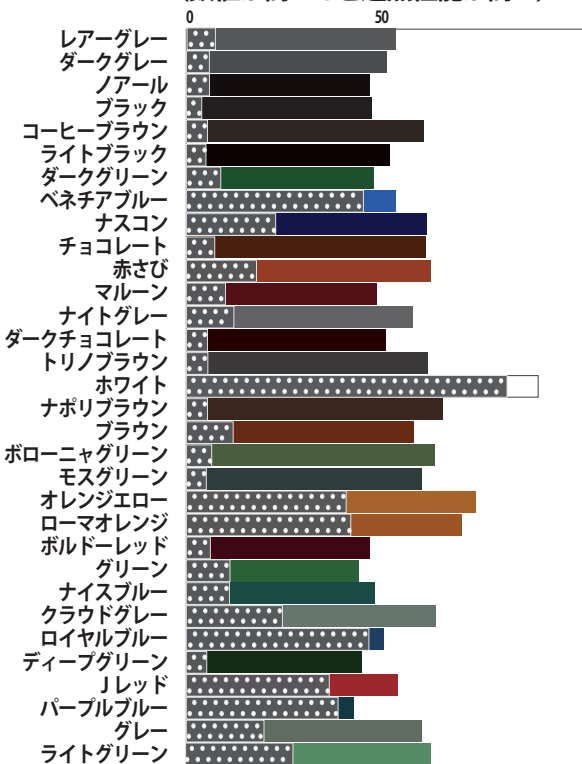
一般的に、暗い色ほど反射率は低く、明るい薄い色ほど反射率は高くなります。

色調	日本塗料工業会登録 日射侵入比 ※() は日射反射率近似式による			明度L* (SCE測定)	全波長域 反射率(%) (300~2500nm)	近赤外線領域反射率(%) (780~2500nm)		
	☆数	サーモF	サーモSi				<比較>一般 屋根塗料の場合	
Y-102	レアグレー	☆	(0.71)	(0.71)	30.1	28.8	52.2	7.4
Y-103	ダークグレー	☆	(0.73)	(0.73)	24.0	26.7	50.1	6.1
Y-104	ノアール	☆	(0.76)	(0.75)	21.6	24.3	45.7	5.8
Y-105	ブラック	☆	(0.76)	(0.76)	8.0	23.3	46.3	3.9
Y-106	コーヒーブラウン	☆	(0.70)	(0.70)	18.3	29.9	59.4	5.5
Y-107	ライトブラック	☆	(0.74)	(0.74)	18.8	26.3	50.9	5.1
Y-109	ダークグリーン	☆	(0.75)	(0.75)	27.7	25.0	46.8	8.6
Y-110	ベネチアブルー	☆	(0.71)	(0.71)	30.3	29.1	52.3	46.2
Y-112	ナスコン	☆	(0.70)	(0.70)	15.3	30.2	60.1	23.3
Y-114	チョコレート	☆	(0.70)	(0.70)	20.9	30.1	59.8	7.4
Y-117	赤さび	☆	(0.66)	(0.66)	27.8	33.7	61.1	18.3
Y-125	マルーン	☆	(0.74)	(0.74)	21.7	25.9	47.4	9.8
Y-127	ナイトグレー	☆	(0.66)	(0.65)	43.4	34.4	56.5	12.4
Y-128	ダークチョコレート	☆	(0.74)	(0.74)	18.0	25.8	49.8	5.5
Y-129	トリノブラウン	☆	(0.69)	(0.69)	20.0	30.9	60.3	5.6
Y-130	ホワイト	☆☆☆	0.13	0.12	95.5	88.5	87.8	80.1
Y-133	ナポリブラウン	☆	(0.66)	(0.66)	27.6	33.9	64.2	5.5
Y-134	ブラウン	☆	(0.69)	(0.68)	29.7	31.5	56.9	12.2
Y-138	ボローニャグリーン	☆	(0.68)	(0.68)	25.1	32.0	62.1	6.6
Y-139	モスグリーン	☆	(0.70)	(0.70)	18.4	29.9	58.8	5.2
Y-140	オレンジエロー	☆☆	(0.53)	(0.53)	51.3	46.9	72.4	41.7
Y-141	ローマオレンジ	☆☆	(0.58)	(0.58)	40.7	42.1	68.8	42.9
Y-142	ボルドーレッド	☆	(0.76)	(0.76)	17.5	24.0	45.6	6.0
Y-152	グリーン	☆	(0.74)	(0.74)	29.2	23.1	43.0	10.9
Y-153	ナイスブルー	☆	(0.74)	(0.73)	30.8	26.2	47.0	10.8
Y-155	クラウドグレー	☆☆	0.52	0.50	60.2	44.0	62.2	24.0
Y-161	ロイヤルブルー	☆	0.65	0.65	30.9	27.7	49.3	45.6
Y-162	ディープグリーン	☆	(0.78)	(0.78)	15.2	22.2	43.8	5.1
Y-163	Jレッド	☆	(0.66)	(0.66)	32.2	34.3	52.7	35.7
Y-164	パープルブルー	☆	(0.78)	(0.78)	20.6	22.3	41.8	37.9
Y-165	グレー	☆☆	(0.60)	(0.60)	56.8	39.6	58.7	19.4
Y-166	ライトグリーン	☆☆	(0.60)	(0.60)	54.9	39.8	61.0	26.8

住宅等でよく使われている濃色での遮熱塗料を取り揃えています。

一般屋根塗料に比べて、かなり反射率が上がります！

近赤外線領域反射率 (数値が高いほど遮熱性能が高い)



遮熱性能高い

は、同色での、一般屋根塗料の反射率を示しています。